

5.3憲法集会



東京臨海広域防災公園に5万人

「平和といのちと人権を」「明日を決めるのは私たち」を合言葉に五月三日、「憲法集会」（主催・同実行委員会）が開かれ、会場となった江東区の東京臨海広域防災公園は、五万人の参加者で埋め尽くされました。昨年が続いて「総がかり」で行う統一集会です。婦民からの参加者も五十人を超えました。またこの日は、全国各地で憲法集会やデモが壮大に展開されました。

さわやかな五月の空のもと、会場は熱気いっぱい。開会挨拶に立った高田健さん（解釈で憲法9条壊すな！実行委員会）は「安倍政権は大多数の民意を顧みず昨年九月十日、戦争法を強行した。しかしそれ以降も、この暴挙に反対する闘いは全国で継続され、大きな展開を見せている。とりわけ先の北海道五区の補選での共同のたたかいでは、安倍政権の心胆を寒からしめた。野党と市民がしっかりと手を結んで

闘えば与党を追い詰めることができる」と強調。「参院選で必ず勝利して安倍内閣を退陣に追い込もう」と呼びかけました。ゲストが次々に登壇して挨拶。

第十七代高校生平和大使だった大学生の白鳥亜美さんは「十八歳選挙権が与えられ、憲法九条の危機が言われる中、私たち若者が行動を起こすことが大切だと思う」と語りました。立憲デモクラシーの会共同代表の山口二郎さん（法政大学教授）は戦争できる国の特徴として、政府は真実を覆い隠し国民をだます、個人の多様性や自由が否定される、学問に対する抑圧が進むの三つをあげ、「これを跳ね返すのは私たちの力。今、野党の結集、参院選一人区での協力が進んでいる。全力を尽くして闘っていきましょう」と呼びかけました。

刃野古基金共同代表の菅原文子さんは「現政権に無制限、無期限に政治権力の行使を委託しているわけではない。この国の未来を決めるのは私たちだ」と力を込めました。ジャーナリストのむのたけじさんは「従軍記者でも戦場に立てば、兵隊と全く同じ心境になる、死にたくなければ相手を殺せど」。憲法九条こそ人類に希望をもたらす。会場には若いエネルギーが盛り上がっている。これこそ新しい歴史が動き始めたということだ」と語りました。「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合の浅倉

むつ子さん（早稲田大学教授）は「若い人々と共に民主主義を育て、立憲主義を回復するために、安倍政権を批判し続ける」と述べました。民進、共産、社民、生活の四野党の党首が壇上に勢ぞろい。互いに結んだ手を高く上げて、参院選必勝へ共同の決意をアピールしました。

各界からのリレートーク。ついで「戦争させない1000人委員会」の福山真劫さんが行動提起。戦争法廃止を求める二十万署名が千二百万人を突破したこと、署名は六月末まで続けることを報告しました。集会後は二手に分かれて大デモ行進が行なわれました。

先の大衆議員補欠選挙で野党統一候補として奮闘した池田真紀さんが挨拶に立ち、「今回は補選でした。ということは本選があるということですから。がんばります」と元気いっぱい語りました。

市内を「憲法守ろう」「戦争させない」と声を上げ行進、道行く人にアピールしました。（札幌支部 岡本美恵子）

札幌市では五月二日、やっと春の訪れた大通公園で「戦争させない北海道実行委員会」主催による「安保関連法廃止＆守ろう憲法集会」が開かれ、千二百人が参加しました。集会は、道平和運動フォーラム、道憲法共同センターの両団体が初めて共同で取り組んだものです。

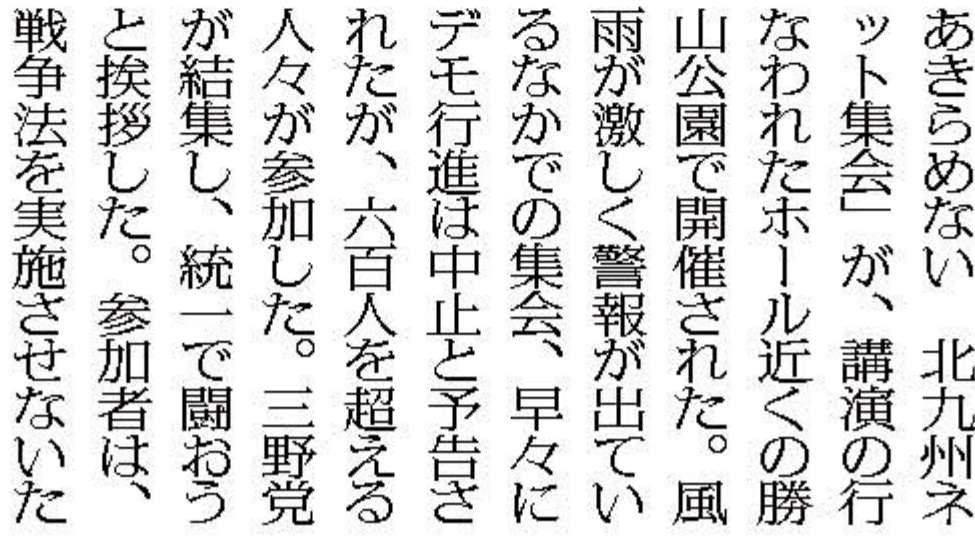
先の大衆議員補欠選挙で野党統一候補として奮闘した池田真紀さんが挨拶に立ち、「今回は補選でした。ということは本選があるということですから。がんばります」と元気いっぱい語りました。

北九州市勝山公園で

をテーマに北九州市内で開かれ、会場はあふれんばかりの参加者。ひきつづいて「平和をあきらめない 北九州ネット集会」が、講演の行なわれたホール近くの勝山公園で開催された。風雨が激しく警報が出ているなかでの集会、早々にデモ行進は中止と予告されたが、六百人を超える人々が参加した。三野党が結集し、統一で闘おうと挨拶した。参加者は、戦争法を実施させないために頑張ろうと、野党共闘に期待をかけた集会となった。（左京支部 野田恵美 北九州市在住）



神戸市三宮で



北九州市勝山公園で